九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[05_3] 図書館情報 : 九州大学附属図書館月報 : 5(3)

https://doi.org/10.15017/18019

出版情報：図書館情報. 5 (3), pp.17-22, 1969-03-20. 九州大学附属図書館
バージョン：
権利関係：

九州大学附属図書館月報

図書館情報

1969.3

The Kyushu University Library Bulletin Vol. 5, No. 3

複写法の進歩

田中 潔

戦後の図書館業務の中で，最もめざましい進歩をとげたのは文献複写法であろう。戦前には研究者が大切な文献を保存しようと思えば，著者から別刷を送ってもらうか，全文をタイプで打ち直すかするのが普通であった。全部を写真にとる方法もないではなかったが，35mmカメラの発達していない当時としては，途方もなくぜいたくなこととして通常考え及ばないことであったし，もちろん，図書館でもそういうサービスはしなかった。いきおい，学術雑誌そのものの貸借がひんぱんで，図書館は紛失と返本遅滞に悩み，利用者は貸出中のうき目に泣いたものである。

戦後まもなくのころ，当時東大だけにしかなかった J. Neurophysiol. Vol. 9 (1946) 掲載の論文をぜひ読みたくて，東大に郵送借用をお願いしたことがある。それに対して東大図書館の掛員の方が，全文をタイプして図までペンで写して送って下さったのには大いに感激した。今では考えられないサービスであるが，当時としては原本を送る不安（郵便物紛失事故も多かった）もあり，掛員の時間的余裕もあったものと思われる。その論文は私の研究の転機ともなった貴重なもので，今なお保存しているが，すでに黄色に変色した21枚のタイプ用紙をみるたびに，その時の名も知らぬ掛員の方に対する感謝の気持が湧いて来るのである。

終戦後数年もたつと国産 35mm カメラの発達によって，接写装置で各ページを写しとり，そのフィルムを引伸し焼付する方法が普及し始めた。カメラを肩にぶら下げ，ケースに入った組立て枠を持って歩いて，図書館の中で借りた本をパチパチと写してしまうことができるので，最も能率的な文献記録法として流行した。当時鳥取大学にいた私も，この装置によって九大精神科の秘蔵本 Winkler のネコとウサギの脳組織図を複写し，今なお日常の役に立てているのである。

昭和30年のころアメリカ製 Thermo-Fax という複写機が輸入された。これは熱線をあてて黒い文字の所が熱を吸収する理論を応用し，熱に感ずる特殊感光紙を用いて直接複写するもので，液体現像操作不要の点で画期的といわれたが，複写した文字はぼやぼやで，紙は黄褐色を帯びまるで変色した写真をみるようで，ろくにはやらぬうちにすたれてしまった。

液体現像付の直接複写法（トーコープ，ヒシラコピーの類）は，カメラ不要で短時間に仕上り，鮮明度も申し分なく，フィルム引伸し法より安価でできるため大いに普及し，電子複写出現までの約10年間は複写法の王座にあったといってよい。しかし，今はこの種の複写機が埃をかぶって部屋の隅にころがっている図書館も多いことであろう。

数年前登場した電子複写技術は，正に革明的ともいわれる大進歩で，ゼロックス (Xerox) のレンタルシステムによる普及は世界を席捲したといわれる。黒と白の帯電効果の差を利用し，帯電した黒色粉末が黒字の部分だけに着くようにした技法は，特殊印画紙を必要とせず，十数秒で鮮明な複写ができるスピードとともに，当時試運転に立合った人たちをただ感嘆させるばかりであった。

しかし，ゼロックスといえども完全な文献複写法とはいえない。何よりも写真がうまく写らぬのが欠点である。現在さらに短時間でできる新型も発表されたが，戦後20余年でここまで進歩した複写法であるから，やがて完ぺきな技法が生れることであろう。

（たなか・きよし：薬理学教授；医学部分館長）

医学部分館の本年度実行予算案などを審議

—第83回附属図書館商議委員会—

昭和44年3月7日（金）工学部本館4階会議室において第83回附属図書館商議委員会が開催され，昭和43年度医学部分館実行予算案および昭和44年度指定図書推薦依頼の二つの議題について審議が行なわれた。

審議にさきだち，船越事務部長から，第42次（昭和43年度）国立七大学附属図書館協議会（本誌第4巻第10号に記載）ならびに本年5月16日～19日に東京で開催される第1回日米大学図書館会議について報告があった。

中央図書館および教養部分館の実行予算については，昨年7月5日に開催された第82回商議委員会で承認を得たが，医学部分館の実行予算は9月に開催予定の次回本委員会で審議されることになっていたが，学内事情で開催がおくれたことが委員長から釈明された。

医学部分館の実行予算案については，総額 12,571,000 円について倉恒委員から説明があり異議なく承認された。財源別および項目別配当予算は次のとおりである。

〔I〕財源別

		予算額	予算総数に対する割合
1	大学振替額	2,221,000 円	17.67 %
2	医学部　〃	6,900,000	54.89
3	医学部附属病院〃	1,800,000	14.32
4	歯学部　〃	850,000	6.76
5	薬学部　〃	800,000	6.36
	総額	12,571,000	100.00

〔II〕項目別

		配分額	予算総額に対する割合
1	図書費（指定・参考・一般図書費）	2,550,200 円	20.29 %
2	雑誌費	8,238,200	65.53
3	印刷・製本費	617,000	4.91
4	備品費	409,700	3.26
5	消耗品費	296,900	2.36
6	古医書等整理費	351,000	2.79
7	その他	108,000	0.86
	総額	12,571.000	100.00

指定図書推薦依頼については，山崎整理課長より次のとおり報告ならびに説明があり，質疑応答の後了承された。

1　昭和43年度は原則として和書に限定し，昭和44年1月末現在728冊（和書692冊，洋書30冊）の整理を終わり，指定図書室に備え付けた旨報告。

2　昭和44年度も本館としては医学部分館，教養部分館とともに，引き続き指定図書の充実をはかりたいので，新学期の講義に直接関連する図書，または，講義を補足する意味での必読すべき図書として指定のうえ，推薦を2月19日付けで各教官に依頼した旨，別紙について詳細に説明。

最後に，伊藤館長の紹介があり，船越事務部長から本年3月末日に退職のあいさつがあった。

◆ 研　修

福岡県大学図書館協議会研究総会（昭和43年度）

〈とき：昭和44年2月21日　ところ：西南学院大学〉

概要：約50名の出席があり，恒例により議長選出（九州芸工大・多比良教授）理事館報告（九大・船越部長）があり，研究報告に入り，午後，過日（昭和43年9月）竣工なった当大学の新図書館の見学があったが，殆どの大学が手狭な上に旧式図書館に甘んじなければならないだけに，近代化

された当大学の新図書館は，大方の羨望の的となった。

図書館見学後，更に研究報告があり，最後に協議会運営についての事務的協議があり，午後四時頃閉会した。なお，九大の船越部長の退任の挨拶があったが，部長の四十余年に亘っての地区大学の図書館活動の貢献に対して本協議会としても何らかの型で，お礼をしたいという提案があり，全員が賛同したことを附言しておきたい。

研究報告の主たるものは次の通りである。

北部地区—ヨーロッパ各国大学図書館について（東筑紫短大　森田清恵氏講演）
　　図書館業務の改善について　　学生に対する図書館利用指導の再検討
南部地区—カードの複製について
福岡地区—大学図書館の業務分析について　　分類表の検討について
　　英国初期の印刷・出版事情について（九大教養部　林哲郎教授講演）

なお，研究期間はいづれの地区も43年7月頃から44年2月まで，数回に亘り継続して行われた。

資料紹介

British Council 寄託図書の寄贈について　—中央図書館—

68年7月の図書館情報でもお知らせしたように，本協会の寄託図書の経緯については関心のある方は周知されていることと思うが，去る2月24日(月)，本協会駐日副代表 (D. Hardwick 氏) の来館があり，現在の寄託図書（1561冊）を寄贈するとの申入れがあった。中央図書館としては突然のことでもあったが，無論のことその好意を有難くお受けすることにした。

思えば，10 List に亘っての寄託図書で，言わば預かり物であるだけに，その保管には少なからず気を配ったものであるが，その苦労が寄贈によってむくわれたと言えないことはない訳である。

ただ残念なことに特殊な研究者以外には殆ど利用者もなく，永い間，書庫に眠っているという状態であったので，これを機会に今後は出来るだけ多くの人達に利用して貰うべくその方法を検討中である。例えば各学部に希望図書の申込みを受けるなり，当館でも内容別に各学部に移管するなりがその方法の一つでもあろう。

しかし，寄贈になった以上は大袈裟に言って国の備品となるので，登録手続などの事務処理に多少の時間がかかるので，その点は予めお含みおき願い今後の充分なる利用をおすすめする次第である。

九州大学継続受入逐次刊行物目録（和文篇）昭和43年版を編集

この目録は，先年刊行した昭和41年版に続く第二回目のもので，逐次刊行物の全学的収集計画の資料として，各部局図書室の協力を得て，昨年10月より編さん中であったが，いよいよ刊行の運びとなった。

内容は，本学における継続受入中の購入および寄贈・交換による逐次刊行物の和文（中国・韓国語を含む）のものを，昭和43年9月末現在の時点で広範囲に集録したもので，タイトル数4,375種を記載している。

この目録が研究活動の一助ともなれば幸いであるが，日常業務のかたわら編さんに当ったため，多くの不備な点があると思われるので，お気づきの点はご教示願い，今後の刊行に役立てたいと考えている。

学内図書館のたより

昭和44年度中央図書館指定図書の推薦について　—中央図書館—

本年度も中央図書館に備え付ける指定図書（原則として和漢書のみ）を，例年どおり講師以上の教官（426 名）の方々に，1講座2万円の範囲内で，ご推薦をお願いすることになりました。中央図書館に指定図書を備え付けるようになりましてすでに6年，学生間にも指定図書の主旨が浸透し，年々その利用は高まっております。教官と中央図書館と学生が一体となって教育効果を高めようとするこの制度の意義を，教官各位におかれましてはご理解の上，いっそうのご協力をお願いいたします。推薦の締切りは，3月20日です。

退職のごあいさつ

船越惣兵衛

昭和44年3月31日付けで，九州大学附属図書館事務部長を退職するにあたり，皆様方に謹しんでごあいさつ申し上げます。

かえりみますと，大正15年11月創設間もない九州帝国大学法文学部中央整理室に採用され，図書の受入事務を命ぜられました。法文学部創設当時は，多額の設備費で購入される図書の量はばく大なものでありました。その大量の図書を早く正確に受入整理するためには，図書館と中央整理室を統合することが能率的であり，また，経費の節約にもなることから，昭和3年5月に中央整理室が廃止され，私は附属図書館に配置換えになりました。昭和24年10月，新制大学の附属図書館事務長に任ぜられ，さらに昭和40年4月附属図書館事務部長に任命されまして，今日まで42年の歳月が夢のように過ぎました。

創立このかた，昭和36年5月までの附属図書館の発展の歴史は，「九州大学五十年史　学術史下巻」の巻末に記載されています。しかし，図書館史もページ数が限定されましたので簡略な記述になっていますが，九州大学の規模の拡充と学生数の増大に伴い，設備の整備拡充，予算関係，職員の増員問題等で歴代の館長の苦心の程がうかがえます。

その後，全国国立大学図書館長会議，国立七大学附属図書館協議会の関係当局に対する要望，日本学術会議の政府に対する「大学図書館の近代化について」の勧告等により，大学図書館の改善の必要が認識されるようになりました。この機運の中で，九州大学も図書館の近代化のため全学的な支援のもとに，サービス精神に徹した全館員の涙ぐましい努力によって，少ない人員と不足がちな予算で，困難を克服しながら，一応の成果は収められたと信じます。

こうした図書館の現状でありますが，なお未解決な問題がいくつかありまして，九大図書館発展のため，全学の理解と支援をお願いいたします。

まず第一に，機構の整備上，課長補佐を一日も早く設置してもらいたいことです。国立大学の図書館で部課制が施行されています七大学のうち九州大学を除いた六大学には課長補佐が設置されています。

第二に，十年前に比較しますと，教官数・学生数の激増と学術情報のはんらんにもかかわらず，図書館職員の増員が実現しないことです。図書館の仕事は，研究と教育への奉仕でありますが，図書館がその任務を果してゆくためには，大学の規模が大きくなれば，職員数も自然増員にならなければ不合理であります。定員数の約半分の非常勤職員を採用している例は，他の大学図書館ではみかけないことです。もちろん，図書館業務のありかたについては，改善に改善を加えて積極的に努力がはらわれ，機械化についても研究が進められていますが，大学図書館視察委員が指摘されましたように，図書館職員はその絶対数が不足であります。

第三に，図書館予算の不足であります。国の大学図書館に対する配当予算は，昭和38年以来横ばいであり，大学の振替予算も過去においては大巾な増額は認められませんでした。この数年間，僅かな指定図書費，継続的学生用参考図書を購入するための参考図書費，最小限度の新聞雑誌費の合計額が，大学図書館の図書費であるという現実では，学生にとっては魅力ある図書館とはいえません。教官当積算校費で購入された図書館資料は専門的でありますが，それぞれ研究室に分散配置されます。とくに国立大学では，「図書館資料は全学の共通財産である。」という観念から，全学的な共同利用の態勢が確立されることを望む声が強く大きくなっています。図書費についで不足しているのが図書館維持費であります。定員不足のために採用している非常勤職員の賃金が，図書館予算の三分の一に近いという現状では，活発な図書館活動を望む方が無理といえましょう。

最後に，新館建築が早期に実現することです。去る第82回商議委員会で図書館建築予定地も確定いたしました。今後は，大学当局，施設・建築関係者，図書館関係者および利用者の間の慎重な検討が行なわれて，適正な管理運営ができ機能的に有効な活用がなされる近代的図書館が一日も早く新営されることを祈ってやみません。

なお，近代化の途上にある図書館の順調な発展が，大学問題の関心の推移につれて中断することが気にかかります。学園紛争が一日も早く解決して正常な教育と研究が行なわれることを心からお祈りいたします。

九州大学で42年間図書館業務に専従できましたことは皆様のご厚意のたまものと感銘いたしてお

ります。学内学外のご支援にもかかわりませず，微力のためにご期待の万分の一もはたせなかったことを思いますと，まことに申し訳なく存じています。永い間，ご厚情をいただきました皆様に衷心より御礼を申し上げます。 （ふなこし・そうべえ：図書館事務部長）

学内図書館めぐり

教養部図書館の沿革 （その4）

昭和30年頃から奉仕活動に重点をおいた「図書館の近代化」が大きく叫ばれるようになったが，それまでの図書館業務は図書館資料の保管を第一としていた。当館においても同様で学制改革や分校の設立，統合さらに分館制度の発足など戦後の制度上の改革，発展に伴い図書館の機能がそれと平行して進歩したとは必ずしもいえなかった。

昭和37年4月1日西尾陽太郎教授（国史学）が第三代分館長に就任されてから昭和41年11月30日一身上のご都合で辞任されるまでの5年間は教養部分館にとって，大きな転換期であった。昭和36年12月附属図書館長に北川敏男教授が就任されるや，商議委員会で「九州大学図書行政基本要綱」を検討されると共に中央図書館の近代化を着々と推進された。当館もその意を戴して望ましい図書館の姿に近ずくよう努力をして来たが，この間何もかも不足している当館にあって分館長の尽された功績は極めて大きいものがあった。

所謂，近代的大学図書館の使命としておうよそ次の様なことが挙げられる。

A．学生に対する使命

1．大学の行なう教育をより効果あらしめること

① 指定図書制度の採用 ② 参考図書資料の整備 ③ 視聴覚資料の整備

2．学生の図書の利用をできるだけ容易にし，知識の源泉に接しやすくすること

① 開架制の採用 ② 充分な座席数を整備 ③ 開館時間の延長

3．学生に対する適切な読書指導

① 参考図書資料による読書指導 ② 図書館利用に関する案内書の整備など

B．研究に対する使命

1．研究者に対し，あらゆる情報源を提供すること

① ユニオンカタログの整備 ② 参考図書資料の整備 ③ 奉仕活動の高度化

2．研究者の図書文献の利用を容易にし，必要とする知識の源泉に接しやすくすること

3．研究者の文献利用の適切な相談相手となること

（「大学図書館施設基本要項」より）

これらのうち，まず学生に対するものとして講堂の学生閲覧室への改装を機会に，旧閲覧室に開架制を採用し指定図書制度を導入した。また，教官に対してはゼロックス賃借契約を結び文献複写業務を充実させた。

昭和37年8月28日 開架閲覧室開設に先立ち各学科教官に対して開架室の目的・機能などを説明し開架室備付図書の選定について協力方を依頼

〃 9月10日 再度協力方依頼

〃 9月13日 後期授業開始と同時に新装なった学生閲覧室（旧講堂）オープン。 座席数154． 蛍光灯つき閲覧机大型（6人用）21 小型（2人用）14

昭和37年10月15日 開架閲覧室（旧学生閲覧室）オープン． 座席数72 講義参考書，一般教養図書，参考図書 約2,500冊備付（昭和44年3月1日現在7,612冊）

昭和38年4月 指定図書制度導入 作業員の常駐なる

昭和39年4月 図書館利用案内の作製配布懸案の再分類作業5ケ年計画実施， 本学最初の指定書を含む開架図書の一夜貸出の実施

昭和40〜41年 旧書庫の整備

昭和31年建坪25坪三層の書庫が増築されたが，急増する図書館資料は増築後10年にして書庫に溢れたため，旧書庫の固定式木製書架を移動式スチール製書架に切換えて収納冊数の増加をはかった。固定式木製書架の棚5段に対して現在の移動式スチール製は複柱式棚9段で約7割の収納増が実現した。この経費は配電設備工事を含めて2,027,400円であった。

昭和40年6月 ゼロックスを導入

〃 40年9月 学生用雑誌コーナー新設

昭和40年9月　複写室を図書館内へ移転し複写業務を図書館の奉仕活動の一つとする。

複写業務は当初文科系教官の強い要望によりマイクロリーダー1台と富士クイックコピー1台をもって教官閲覧室の片隅で始められた。その後現在の一号館三階の一室に移り，オフセット等順次機器を整備した。複写室の整備に伴い複写の利用が文科系教官のみでなく教官全般にわたってきたことや，文献複写が学内の図書館(室)間での資料の相互貸借と密接に関連すること，さらに貸借契約によるゼロックスの導入による複写業務の充実などから複写室を図書館内に置き図書館の奉仕活動の一つとして複写業務を行なうことになり，このための人員を一名（非常勤）確保した。当館で行なう複写業務は校費（教養部予算内）によるものだけしか行なわないが，特にゼロックスについては1コピー15円という学内一の廉価である。

昭和41年6月　書庫を学生に開放

（午前9時～11時　　午後1時～4時—回30分以内，同時に5人を限度とし，入庫許可）

昭和41年4月　教養部分館運営規則一部改正

改正の主な項目は第13条の貸出についてである。従来学生に対する貸出は毎週火・木・土曜に1人2冊まで期間7日であったものを毎日1人1冊期間8日とし，学生への貸出制度の拡大をはかった。

昭和41年10月　玉泉館（歴史資料展示室）の開放

これは創設者の玉泉教授のご趣旨である。広く学生（一般）に開放して歴史学の参考とするため西尾分館長のご尽力により専任の職員1名を置き毎日11時から14時まで開放している。

以上のように西尾分館長時代は当館にとって大きな変革の時期であった。西尾分館長の下にあって開架制の採用，指定図書制度の導入，そしてプリントセンターの開設等々近代化への道を歩き始めた。これには又，北川館長のイニシアチブの下に附属図書館の示された中央図書館としての指導的役割に負う所が大である。

学内マイク

学生諸君へのお知らせ

昭和44年度の学生用館外図書貸出券の交付について　　—中央図書館閲覧掛—

4月7日(月)から，昭和44年度の図書貸出券交付のための登録を受付けます。学生証と印鑑を持参の上，中央図書館2階閲覧室の出納台までお越しください。図書貸出券は，昭和44年4月から45年3月まで1年間使用できますが，例年登録されるのが遅く，前期・後期の試験期頃になって，はじめて登録されるような状態ですが，試験期は館外帯出を中止しますので，貸出券の交付を受けられてもまったく利用されない場合が多いようです。せっかくの便利なこの貸出制度が有効に活用されていないのが残念です。

なお，図書貸出券は，1人に3枚づつ交付します。1枚で図書が1冊借りられますので，うまく使っていくならば常時3冊借りておれるわけです。**貸出期間は大学院学生は1か月，学部学生は8日間**。その期間内で，読み終えることができずに貸出継続を望まれる場合は，ほかに予約のないかぎり，帯出期間の更新ができます。そのほか，卒業論文作成のために必要と認められた方は，指導教官の研究テーマの証明書（その用紙は図書館にあります）を提出されれば，1カ月間の長期帯出もできます。この便利な館外帯出制度を大いに活用するために，どうか早目に登録をすませてください。なお今年度から，館外出のできる指定図書は和書・洋書とも，一般図書と同様に貸出期間を8日間とします。あわせてご利用ください。

学生用図書貸出券の交付状況

学部＼種別・年度	学生数 42年	学生数 43年	登録者数 42年	登録者数 43年	比率 42年	比率 43年
教育 文	528人	537人	274人	276人	52%	51%
教育 法	140	162	31	28	22	17
経済	676	719	236	258	35	36
理	684	680	134	159	20	23
医	627	705	110	107	18	17
薬	955	854	10	8	1	1
	274	299	10	11	4	4

（歯学部は新設学部のため，医学部の中に含む）

（昭和44年3月1日現在）

学部＼種別・年度	学生数 42年	学生数 43年	登録者数 42年	登録者数 43年	比率 42年	比率 43年
工	2,312人	2,388人	279人	291人	12%	12%
農	700	736	85	77	12	10
教養	2,302	2,384	16	23	1	1
工教	65	21	5	3	8	14
中央図書館地区各学部計	5,732	5,948	1,154	1,199	20	20
全学計	9,163	9,485	1,190	1,241	13	13

九州大学附属図書館月報「図書館情報」Vol. 5, No. 3.（通巻42号）
1969年3月20日発行・発行人　船越　惣兵衛
発行所　九州大学附属図書館・福岡市大字箱崎 3576・〒812・電話代表 ㊹ 1101 内線 5301